石川会計事務所
NEWSLETTER
企業の成長を加速させる「あなたのベストパートナー」
2026年 10月号
～生成AI関連～

生成AIの定量成果、約8割が「作業時間・工数削減」― 中小企業も身近な業務から活用を

2026年9月、TISIは国内企業や官公庁が公表した生成AIの活用事例を分析したレポートを公開しました。生成AIの効果を数値で示している事例を見ると、その約8割が「作業時間・工数の削減」に関するものでした。一方、「売上が増えた」「投資に見合う成果が得られた」といった、事業成果に直結する効果を数値で示した事例は、まだ限られています。

成果が出やすいのは「身近な業務の時短」

生成AIというと、売上拡大や新規事業の創出といった大きな成果を期待しがちです。しかし現時点では、「1時間かかっていた作業が何分になったか」といった、日々の業務効率化で成果が表れやすいことがわかります。
実際に、MicrosoftがForrester Consultingに委託して実施した調査では、Microsoft 365 Copilotの利用者へのアンケートで、メール作成で20.0%、会議メモ・要約で18.6%、コンテンツ作成で34.2%、データ分析で20.6%の時間削減が報告されています。※1 国内でも、NTTデータなど3社が東急株式会社で生成AIを活用した経理業務の検証を実施しました。経理伝票の起票業務で、最大38%の作業削減効果を試算しています。※2
中小企業でも、まずは毎月繰り返している身近な業務から始めると、効果を実感しやすくなります。例えば、生成AIの活用で作業時間を20～35%程度短縮できた場合、具体的には以下のような時間削減につながります。

- メール・社内文書の作成：月30時間→22時間
- 会議の議事録作成：月12時間→8時間
- 経費精算に伴う領収書の整理・入力：月12時間→8時間
- 請求書・見積書の作成：月10時間→7時間
- 売上データの集計・報告資料の作成：月8時間→6時間

上記のような一部の業務だけでも、合計すると月21時間を削減できます。社員の人件費を時給2,000円として換算すると、月4万2,000円、年間では約50万円分の人件費に相当します。
実際の削減効果は業務内容やAIの使い方によって異なりますが、毎月繰り返す複数の業務に広げることで、効果は積み重なっていきます。

まずは身近な業務から始める

生成AIは、大がかりなシステム導入から始める必要はありません。
まずは、メール作成や議事録、請求書・見積書の作成、売上データの整理など、毎月繰り返している業務を一つ選び、どれくらい時間を短縮できるか試してみるのがおすすめです。
小さな業務でも、毎月積み重なれば大きな時間削減につながります。中小企業でも、できるところから生成AIを取り入れてみてはいかがでしょうか。

参照：
TISI「企業における生成AI活用の実態を調査したレポートを公開」
https://www.tisi.jp/news/2026/tisi_info/20260924_2.html
出典：
※1
Forrester Consulting「The Total Economic Impact™ Of Microsoft 365 Copilot」（Microsoft委託、2025年3月）
https://marketingassets.microsoft.com/gdc/gdc70WbNv/original
※2
NTTデータ「生成AIで経理伝票起票を自動化、東急で年間約5,000時間の作業削減を目指す」
https://www.nttdata.com/global/ja/news/topics/2026/052700/

発行責任者：
石川会計事務所　石川 厚